

もくじ

■ 特集

2 **ときがわ町民体育祭**

6 **平成30年度
決算**

■ ごあんない

4 季節のたより 164 「ツワブキ」 / もくじ

■ まちよりのたより

- 11 生き生き活動センターだより
- 12 こんにちは愛育班です / 医療費助成制度のご案内
- 14 食品ロスを減らしましょう / 関口茂八奨学金制度のお知らせ
- 16 世界エイズデー / 東京国立博物館国宝室の展示 / 秋の全国火災予防運動 / 防火ポスター展・表彰式 / 特定健康診査を受診しましょう / 国民年金保険料控除証明書が発行 / 財務省関東財務局の相談窓口
- 18 クリスマスリースをつくろう / 女性の人権ホットライン強化週間 / 訓練放送を実施します / 児童虐待防止推進月間 / 発達障害者就労支援センター
- 20 在宅医療・介護連携推進講演会 / 労働保険適用促進強化期間 / 心の健康講座統合失調症編 / 年末調整説明会開催 / 子宮がん検診を受けましょう / 栄養講座を実施しました

■ Information 暮らしの情報

- 22 こそだて / ほけん / そうだん
- 24 そうだん / ぼうはん / かんきょう / としょかん
- 26 じょうほう
- 28 食はからだをつくる 第1回 / 歴史に立ち寄る No.1 / 1人1日50gのごみの減量を！ -vol.18- / 町民文芸 俳句

【表紙】10月6日(日)に開催された町民体育祭。350歳リレーでのバトン渡し。第2ブロックの選手が精悍な顔つきで走り抜けました。

【裏表紙】表紙と同様、町民体育祭での玉入れの様子。第7ブロックの子どもたちが、自分の投げた玉の行く末を見守っています。

人口と世帯 (10月1日現在)
総人口 11,109人(±0人) ※0は前月比
9月の動き 出生 6人 死亡 11人
転入等 33人 転出等 28人
男 5,634人(-2人) 女 5,475人(+2人)
世帯数 4,734世帯 (+8世帯)
過去のデータはHPで見ることができます。

広報ときがわ【第166号】 令和元年10月25日発行
編集・発行 ときがわ町総務課
〒355-0395 埼玉県比企郡ときがわ町大字玉川2490番地
TEL 0493-65-1521(代表) FAX 0493-65-3631
ホームページアドレス <http://www.town.tokigawa.lg.jp>
メールアドレス info@town.tokigawa.lg.jp

ときがわ町の位置
東経 139度
北緯 36度
海拔 64m
面積 55.90 平方m

防災行政無線テレホンサービス(無料) ☎080-0800-8432

季節のたより 164 ツワブキ



【ツワブキ】
裏表紙にカラー写真を掲載しています

猛暑に痛めつけられながら夏を過ごし、いくつかの台風の洗礼を受けて今年もやっとな秋から冬への橋渡しの季節に到達したように思います。秋も押し詰まったこんな時季、植物の世界を改めて見直してみると、毎月決まったように書いていますが、植物の世界は自然災害のような特別なことが起こらない限り、先取り先取りの姿勢を崩すことなく、余裕をもって次の年の開花に向けて準備万端整えていることだろうと思います。さて今月は、この季節の最後を飾るように開花をする花の中から『ツワブキ』

を選んで書いてみたいと思います。『ツワブキ』は「きく」科の常緑多年生の植物で、本州中部以西から沖縄地方の海岸近くに自生しています(従って本町近辺では自生のものはありません)。形状は、葉柄は長く、葉身は幅20cm余の腎臓形をしていて光沢があり、葉の縁は波型に細かく切れ込んでいます。全体、短い褐色の綿毛によって覆われています。秋に花茎を伸ばし菊の花に似た黄色の頭花を咲かせます。名前の『ツワブキ』の「ツワ」とは艶のこと、葉に艶(光沢)があるということです。艶を言ったもので、別に『ツヤハブキ』(艶葉フキ)の名前も付けられています。「フキ」は「フキ」のことを言い、まとめて「形状はフキに似ていて、葉に艶がある」ということから『ツワブキ』と名づけられたという訳です。また「テルハブキ」(葉に艶があり光って見えることから)、「アツハブキ」(葉がフキに比べて厚いことから)の名前で呼ばれることもあります。よく『ツワブ

キ』の同類として「フキ」があげられますが、同種ではありません。『ツワブキ』の仲間多くは高山性の植物になり、「カイタカラコウ」「メタカラコウ」「マルバダケブキ」「ヤマタバコ」などあり、いずれも摘み草等として好まれていたようですが、残念ながら町内では見ることはできません。実は『ツワブキ』は観賞用の植物として西日本から持って来られて庭先に植木として植えられたものが、今日、目にするものの全てだと考えていいと思います。生活との関わりは、葉柄を『フキ』と同じように和え物、煮物、佃煮、砂糖漬などに行っているようです。また、皮膚病など、腫物の吸出しや、軽い火傷、湿疹などに火であぶった生葉をさめてから貼る、また根茎を煎じたものを魚肉中毒の解毒に煎服すると言われています。

写真・文 小林一公さん (本郷地内)

今年も今月を含めて余すところ2か月となりました。私もこんな随筆に取り組んで20年を過ぎようとしています。足跡を振り返った時に、100歩の道中の1歩にも相対しない歩みのように思えて力のなさのようなものと、書く量のあまりにも膨大な量なのに驚いています。今から新しい年度もよろしくお願ひしたいと力を鼓舞してこうと考えています。